

国領地区におけるまちおこしのプロセス ～進修火の鳥会の取り組みから～

荻野 泰男
(進修火の鳥会代表)

はじめ

進修火の鳥会は、平成10年10月「手づくり御輿を作って秋祭りを盛り上げよう！」と私たちの街「国領」の若手を集めて結成された。

この目的通りに平成11年には、白木の手作り御輿が完成。その御輿を担いで、同年の秋祭りを盛り上げた。翌12年には白木の手作り御輿にカシュの黒をはけ塗りして秋祭りに登場。翌13年には赤の手づくり女御輿もつくり、2基の御輿（黒の男御輿、赤の女御輿）を男女別々に担いで更に秋祭りを盛り上げた。

国領の秋祭りを盛り上げる事で勢いをつけてきた「進修火の鳥会」は、平成14年3月、今度は手づくりでソリをつかって兵庫県のニューオジロスキー場で開催された「全国手づくりソリ大会」にも参加。惜しくも入賞はならなかったが、この頃から徐々に自分たちの小学校「進修小学校」の生徒数の減少が話題にあがるようになった。そしてこの地区のため、進修小学校のために何かできないかという機運が生まれてくる。



写真1. 御輿を担いだ秋祭り写真

まちおこしの流れ

平成14年、一度、中瀬先生に、まちづくりの話をお伺いし、この人博にやってくる。そこで中瀬先生から「まちづくり整備計画」の話をお伺いした。なんとかこの「まちづくり整備計画」を作成し、少子化を防ぐためにも市営住宅と老朽化した体育館の新築を目指そうという話になった。

しかし、いきなり「まちおこし」と言っても人は集まってこない。そこで、まず、国領の名所、旧跡を調べてガイドマップ的なものを作ろうと言うことで、地域の人々に「国領」の話をお聞かせくださいと声をかけ平成15年7月26日より中瀬先生を迎えて「国領区を語ろう会」を開いた。この「語ろう会」は計5回開催し、無事、国領の名所、旧跡を記した冊子「国領区再発見」を平成16年2月に発刊。参加者からも過去より未来の話がしたいという意見も出始めて、「まちづくり整備計画」に向けて環境も整っていった。

そして、ついに翌年平成16年6月



写真2. 国領区を語ろう会

13日より、中瀬先生、景観設計を迎えて国領区の「まちづくり整備計画」を議論するための第1回「国領区里づくり会議」を開催。この会議と平行して「進修火の鳥会」では、平成16年夏の2ヶ月間、この「人と自然の博物館」にて、国領の特産品、商店街の紹介、国領出身の墨書家、荻野丹雪先生の作品なども集めた「丹波・国領博」を開催した。この「国領博」には井戸兵庫県知事、滝本春日町町長も見学に来られ、今後のまちおこしの大きな弾みとなった。

また、10月には心身障害者を迎えての「黒豆ウォーク」や、12月「クリスマスイルミネーション」をつくる事で「整備計画」作成に弾みをつけていく。

平成17年2月までに

「国領区里づくり会議」を6回開き、無事に「国領区まちづくり整備計画」を完成させた。また同時に「国領博」を整理して、国領ガイドマップ第2弾「国領区再発見Ⅱ」も発刊となった。

その結果、この「整備計画」に基づいて、国領区の悲願であった「市営住宅」と「進修小学校体育館」の新築が決まり、現在、平成18年3月完成を目指して工事中となっている。



写真3. 進修小学校での授業

考察と今後の展望

何故「進修火の鳥会」の活動がこのような成功をおさめたのか考察する。

第一には、「自分たちのしたい事を自分たちのスタイルで行った事」が挙げられる。これにより活動が飽きることはなく、また、国領博やガイドブック、イルミネーションなど、目に見えるカタチで成果を出していったことも、地域に対する自信の芽生えに貢献したと考える。そして次に「会員一人一人がエゴを出すことなく、火の鳥会のために黙々と汗をかいた事」で、これにより団結力が発揮できた。自己犠牲の精神は、明治29年の進修小学校における、上田捨藏氏による学田設置と授業料の撤廃に見られるように、古くから国領区に伝わる伝統であるといえる。そして最後に「人と自然の博物館との強い絆」である。人と自然の博物館の先生方や行政の方をはじめ、よき応援団をもち、その人間関係を上手く構築したことにあると思う。

私たちはこの体験を通して学んだ「国領の歴史」を地元の「進修小学校」の子どもたちに伝えながら、「自分のスタイルを創ること」「団結すること」「人間関係を大切にすること」といったまちづくりの基本姿勢を「国領の歴史」とともに伝え、すばらしい次世代の子どもたちを育てていきたいと考えている。

「すばらしき丹波はこの国領から」
「すばらしき日本もこの国領から」

表 1. 進修火の鳥会の活動の系譜

	国領区の未来計画(長期の活動)	国領区を学ぶ活動(短期の活動)
H10.10		進修火の鳥会の結成
H11~14		御輿(男御輿・女御輿)の制作 ・まちおこしの象徴として御輿は欠かせない 全国手づくりソリ大会への参加
H15.8	国領区を語ろう会の開催 ・まちづくりアドバイザー制度の活用 ・まずは自分達で地域計画づくりを実施	
H15.12		イルミネーションの制作
H16.3	国領未来マップの作成 ・国領の未来をみんなで共有	区史(国領区再発見)の発行 ・主に寺社仏閣を中心とした文化資産について調査
H16.4	まちづくり整備事業の開始 ・コンサルティング事業の活用	
H16.8	・緑条例に基づく土地利用計画づくり	国領博の実施 ・人と自然の博物館で展示されることで地域資源が地域資産になる→市民の地域愛の醸成に貢献
H16.9	ワークショップやアンケート調査により市民の提案を収集	火の鳥農園の立ち上げ ・休耕田の活用 ・農園で黒豆を育て、それをスタンプラリーの景品に
H16.10		黒豆スタンプラリー ・心身障害者を招いてのスタンプラリーの実施 ・景品に自分達で育てた黒豆を使用
H16.12		イルミネーションの制作
H17.3	国領区さとづくり計画の策定 ・地区の未来を具体化 ・ハードの計画に合わせ、事業活動も提案	区史(国領区再発見Ⅰ)の発行 ・主に国領商店街について調査 ・2冊の国領区再発見は進修小学校での副読書に
H17.4		瓶割峠ハイキングプロジェクトの実施 ・瓶割峠を越えた大山地区(篠山市)との交流事業 ・ハイキングルート歩きながら間伐を行い、環境管理も カブトムシの養殖 ・進修小学校への寄贈とともに、生徒に対し授業を実施
H17.11		商店街や軒先にプランターの設置 ・花いっぱい運動を活用 ・3月には小学校前に花壇が完成 進修小学校でのオープンスクール ・進修小学校で地区の歴史について講義
H17.12		イルミネーションの制作
H17.12		市長・教育長へのプレゼンテーション ・国領を教育のまちとして支えていくことへの意志表明
H18.4	市営住宅の完成(予定) 進修小学校の体育館が完成(予定) ・少子化への歯止めをねらう	